令和2年2月14日

令和元年度　狭山市立山王小学校　学校関係者評価表

※ 学校が行った自己評価の結果及びそれを踏まえた今後の改善方策について評価する。

※ 【評価の目安】
　Ａ：よくできている。
　Ｂ：概ねできている。
　Ｃ：あまりできていない。
　Ｄ：できていない。

領域	番号	評価項目	自己評価 評価	自己評価 説明	学校関係者評価委員から 評価（文章表記）
学校運営全般	1	学校の重点目標が明確である。	A	・山王小の「あいうえお」は、明確でわかりやすく浸透できた。学校教育目標の達成に向け児童・教職員・家庭・地域等に朝会や会議・懇談会等でわかりやすく説明した。 ・教育心理検査（Ｑ－Ｕテスト）の学級生活満足度が、（平均66.7%全国43%）であり、どのクラスも楽しい学級づくりに努めることができた。 ・職員は相互に尊敬しあう風潮があり、雰囲気も良く仕事への意欲に繋がっている。職員評価(4点満点中3.7) ・教職員も児童と共に清掃活動を行い、見届けができている。無言清掃を徹底させていく。 ・学校の安全・安心に関して細心の注意をはらっている。不審者対応訓練を警察と連携して、児童と職員を対象に実践できた。	・学校教育目標達成のための共通理解・共通行動が図られていると感じている。組織的に取り組んでいる様子に感動している。職員が個々に工夫しやすい体制ができいる。 ・学校全体の雰囲気がとても良く、保護者アンケートからも児童を安心して預けられているのがよくわかる。 ・子どもたちの成長の様子がわかり、また学習に役立つ掲示物が子どもたちを育てる環境になっている。綺麗で潤いのある環境で授業を受けている子供たちは、心身共に成長していると感じている。 ・職員にとって居心地のよい環境であることが、自身の力を発揮できる最大の力となるはず。 ・中学校でも「無言清掃」を目指している。させられる清掃から、自分から進んでやる清掃へと小中の連携して取り組めればと感じている。 ・地域、警察との連携を強化し、危険箇所を周知し未然に防げるよう今後も務めてもらいたい。
	2	児童は、学校生活が楽しいと感じている。	A		
	3	教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる。	A		
	4	清掃が行き届き、学校がきれいである。	B		
	5	安全・安心に配慮し、危機管理体制を整えている。	A		
学習	6	教師は、児童が興味関心のもてる授業、わかりやすい授業を実施している。	B	・ITCの活用や具体物を使った授業を通して、興味関心を持たせ楽しみながら授業を進めた。 保護者アンケート（わかりやすい授業をしている89%） ・各種の学力調査を分析し、指導改善に努めている。今年度は、道徳科で考え議論する道徳の授業実践に取り組んだ。また、学年で連携して、少人数授業に取り組んだ。少人数担当が補習をするなど個に応じた指導を進めた。 ・どのクラスの児童も落ち着いて話を聞くことができているが、やや課題のある児童もいる。 ・6年生の全国学力学習状況調査（国・算）では、全国平均を上回った。また県学力学習状況調査では、4年・6年は国・算共に県を上回ったが5年生が共に下回ってしまった。基礎学力の定着を目指す。 ・家庭学習の習慣についての保護者アンケートは72%と課題がある。家庭と連携し、継続した声掛けをしていく。	・授業がしっかりとなされている。 ・様々な家庭の状況があるため難しい部分がある。なるべく個別に対応できる環境が設けられると良い。 ・先生同士連携し、努力がされている。少人数授業や補修の継続が大事であると思う。先生方の負担も考慮しながら行えれば良い。 ・数学的なものは伸びていると思う。それに安心しないで本物の学力を追及していってほしい。 ・家庭からの働きかけの差があり、それ以上に時間を費やしているもの（ゲーム・スマホなど）が目の前にあることで家庭学習の習慣を意識づけていく難しさを感じる。保護者会や意見交換など、保護者同士での情報交換など共有することが充実できると良い。 ・家庭学習は、保護者の協力が不可欠。粘り強く協力を求めてほしい。
	7	教師は、児童の実態に応じた指導法改善に努め、一人一人の学力を伸ばしている。	B		
	8	児童は、落ち着いて学習に取り組んでいる。	A		
	9	児童は、基礎的基本的な学力を身につけている。	B		
	10	児童は、家庭学習の習慣を身につけている。	B		
規律ある態度	11	児童は、進んであいさつをしている。	B	・児童会を中心にあいさつ運動を行った。今年度の取り組み（シール配付など）もあり、徐々に良くなっている。6年生が挨拶できるのが良い。今後も、継続的にあいさつの指導を徹底していく。 ・児童の丁寧な言葉遣いの意識は、83.4%（県学調アンケート）であり、埼玉県の達成率87%を超えることができなかった。人権感覚を意識した優しく思いやりのある言葉遣いを徹底していきたい。 ・「授業開始時刻を守るの意識」96% 「集団の場での態度」89% 「掃除、美化活動での意識」92% すべて埼玉県の達成率を超えることができた。 ・教師は自ら手本となる規範意識を高めた指導を行っている。特に清掃指導では教師も三角巾をつけ一緒に活動し、見届けている。	・あいさつ運動は、有難い。高学年があいさつをすると下の学年にも影響するので継続してほしい。 ・あいさつについては、身近にいる大人（教師）が見本と感じている。大人からあいさつをすることにより、教師と児童、児童同士のつながりを深め、一日を楽しく過ごす第一歩ではないかと思う。気持ちよく清々しい気分になることを伝えたい。 ・言葉使いについて、子供たちが呼び捨てで遊びの中では成立していることも、注視していきたい。 ・授業の様子から、時間を守り、規律ある生活をしている様子を感じる。
	12	児童は、場に応じた言葉遣いができている。	B		
	13	児童は、時間を守って生活している。	A		
	14	児童は、きまりを守って生活している。	A		
	15	教師は、自ら手本となり、規範意識を高めている。	B		
健康・体力	16	学校は、児童の体力を高めている。	B	・新体力テストの総合評価A＋B 県の割合82.8%　本校　78.0%。 ・新体力テストの結果では、長座体前屈・20mシャトルラン・ボール投げで、昨年度より記録が伸びている。 ・朝マラソンや投力向上のためのバトンスロープの取組や家庭でのストレッチなどの継続が、結果として表れてきている。 ・児童の体力には数値の高い児童と低い児童の二極化が顕著になっている。 ・家庭と連携して医療勧告の治療率を上げていく。 ・生活リズムが崩れてしまっている児童が増えているように感じる。（寝不足・朝食）	・考察、反省等も含め学校全体で体力の向上に取り組んでいる。体が大きくなると興味の持ち方で二極化することも十分わかる。幼児期の体験がやはり大切だと痛感する。 ・外遊びが減っている。安心して遊べなくなった。外で遊ぶなどの学校生活の中でも体を動かす機会が多くなるような工夫をしていけると良い。 ・家庭との連携の中で、どのようにという具体的な発信が実際届かない家庭も多い。子供の乱れている生活リズムを変えるためには、保護者の意識を変えることが大切である。
	17	児童は、体育や外遊びに意欲的に取り組んでいる。	B		
	18	児童は、健康を意識した生活をしている。	B		
地域との連携	19	学校は、教育活動に関する様々な情報を積極的に提供している。	A	・公開の場を多く設け、開かれた学校づくりに努めている。 ・学校便りでは、各校務分掌の主任が時季に応じた特別号を掲載した。 ・今年度は、小中一貫でのあいさつ運動・出前授業やアンケート調査等で中一ギャップの解消にも努めている。 ・どの教職員も保護者等と連絡を密に取り合い、連携し、保護者の信頼を得ている。	・開かれた学校になっている。保護者の関わりが広まるとさらに良い。 ・学校便りや保護者会・学校行事を通して、保護者や地域との連絡を密にし、組織的に教育活動を推進している。 ・小中一貫は、学習面を中心に更に深めていただきたい。 ・地域の協力が多くある。さらに様々な方や今まで関わったことのない方も参加できるようになることが望まれる。
	20	学校は、保護者や地域と連携・協力し、教育活動を行っている。	A		